

□■受験対策ミニ講座 3号 2022□■（養成所ニュースプラス 8号）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の模擬試験は、昨日で申込が締め切られましたが、在宅受験はまだ受け付けています。模擬試験の初期アセスメントとしての活用を国家試験ガイダンスでお伝えしてきました。これからいくつもの模擬試験が実施されます。受験日や受験期間、結果返送時期、解説の有無等をチェックして自分にあったものを選んでください。

静岡県で保育園児の通園バス置き去り死亡事故が起きてしまいました。防ぐことができた事故だけに胸が詰まります。乗降時、登園時の人数確認をダブルチェックするという1年前にも福岡であった事故の教訓を活かすことができませんでした。送迎を行っている皆さんの勤務先では、既に業務マニュアルの点検も済まされていることと思います。

第3回の今回は「福祉サービスの組織と経営」からリスクマネジメントの問題です。いつものように、選ばなかった選択肢のどこを直せば適切になるかあわせて考えてみましょう。

■Plus Quiz

【34回問題 124】リスクマネジメントに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 1件の重大事故の背景には、重大事故に至らなかった29件の軽微な事故が隠れており、その背後には事故寸前だった300件の危険な状態が隠れているのを、リーズンの軌道モデルという。
2. リスクマネジメントは、厳しい管理体制を敷けば事故はなくせるものという前提に立つ。
3. 職員要因のリスクコントロールをするためには、サービスの質の維持・向上を図るための業務や作業の標準化が必要である。
4. リスクマネジメントは、危機管理体制の確立よりも個別リスクへの対応を基本とする。
5. リスクコントロールとリスクファイナンスのうち、リスクコントロールの例として損害賠償保険の活用が挙げられる。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info

- ・(33期生)住所変更後、変更届を提出していない場合はご提出ください。
- ・(34期生)教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。
- ・受講の手引の表紙裏（表紙の次のページ）に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。

■Test Info

国家試験に関する情報をお届けします

- ・第35回国家試験は、令和5年2月5日（日）です。
試験概要はこちら→<http://www.sssc.or.jp/shakai/gaiyou.html>
受験申し込み手続きについてはこちら→<https://www.sssc.or.jp/shakai/tetsuzuki.html>
- ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です（9月15日申込締切）。
詳しくはこちら→<https://www.spw-mosi.com/exam/>

※締切を過ぎましたが、在宅受験は受付中です。詳しくは上記ホームページをご確認ください。

■Plus Info

その他の情報をお届けします

- ・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Back Number

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

【Plus Quiz 正答と解説】

リスクマネジメントには、事故を未然に防ぐだけでなく、事故が発生した場合に迅速に処理し、損害を最小限に抑えることも含まれます。組織の理念を実現し、組織の維持、成長、価値の向上のためには必要な取り組みです。

基本的な活動として、マニュアルなどを作成し業務ルールを守ること、危機回避に備えてリスクを洗い出しその対処を検討すること、建物設備や支援技術を点検すること、そしてヒヤリハットで気づきを発見することなどが挙げられます。組織としてのリーダーシップや従事者の動機付けもリスクマネジメントを形骸化させないために必要な視点といえます。

全ての事故を防ぐことはできません。しかし、防げる事故＝防ぐべき事故と防げない事故を分け、防ぐべき事故の防止に組織で努めることは重要です。危険の予測ができるのに、その原因への介入を怠り、結果事故を起こすなどプロとはいえません。今回の保育園児の通園バス置き去り死亡事故も「やるべきこと」をやっていれば、防げる事故だったのではないのでしょうか。

1. ×選択肢は「1:29:300の法則」を労働災害の分析から導き出したハインリッヒの法則の説明です。リーズンの「軌道モデル」は、事故は様々な要因が重なり発生することを示します。それぞれの要因の弱点が一列に重なってしまったときに、事故や苦情の多くが発生するというモデルです。テキスト11「福祉サービスの組織と経営」p.157のモデル図がわかりやすいです。

2. ×リスクマネジメントは、リスクの予防と事後対応から構成されます。特に事後対応は、完全にリスクを防ぐことは困難であることを前提としていて、「事故はなくせるもの」という前提ではありません。

3. ○経験則による介護や支援は、業務にばらつきが生じることで利用者の不満が出たり、同様の事故を別の職員が繰り返すことにもなります。事故の要因を組織的に分析し、事故を防止するために標準的なマニュアルを作成することは、リスクコントロールにもなります。

4. ×リスクマネジメントは、個別リスクに備える以上に危機管理体制の確立が基本となります。「リスクマネジメント委員会」の組織化もその一例です。

5. ×リスクマネジメントには、2つの取り組みがあります。一つは、リスクコントロールでリスクの発生防止や発生の影響を最小限に抑える方法です。標準マニュアルの作成や耐震補強、BCP(事業継続計画)などが挙げられます。二つ目は、リスクファイナンスで組織の財政面のリスクに対し、経営への影響を緩和する方法です。損害賠償保険の活用は後者の例になります。

※リスクマネジメントは、第28回、31回、33回でも出題されています。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus